

## 2026\_0407「アセビの花」日々の理科 4258号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

4月上旬の職場の構内で、アセビの花が見られます。アセビはツツジ科アセビ属の常緑低木で、学名は *Pieris japonica* です。漢字では「馬酔木」と書き、葉や枝に含まれる有毒成分（グラヤノトキシン類）により、これを食べた馬が酔ったような症状を示すことに由来します。日本では本州・四国・九州に広く分布し、山地の林内や林縁に自生します。

花期は主に3～4月で、壺形の小さな花を総状花序として多数下垂させます。花色は白色が一般的ですが、園芸品種では淡紅色のものもあります。個々の花は合弁花で、先端がわずかに開き、内部に雄しべと雌しべを持ちます。葉は革質で光沢があり、互生します。新葉は赤色を帯びて展開し、成長とともに緑色へ変化します。

アセビは酸性土壌を好み、日陰でも生育可能な耐陰性を持つため、庭木や公園植栽としても利用されます。常緑性で年間を通して葉を保つ一方、春には花、初夏には新葉と、季節ごとに観察対象が変化します。なお、有毒植物であるため、誤食や家畜への影響には注意が必要です。

